



学校が避難所になるから災害用備蓄物資もありますよ。

井口亮一が問う

児童生徒の命を守るためには

Q 宮城県の小学校を巡り、仙台高裁は学校や市の震災前の対応の不備が過失に当たると認定した。当町の危機管理マニュアルに問題はないか。

A 学校教育課長 校長に求められる防災知識は、より高く求められています。当町の各学校で作成している危機管理マニュアルにおいても、防災知識を十分有し、そのことを踏まえて作成されているとは言い切れない部分もあるかと捉えています。教育委員会の指導や支援は、十分行なわれているか。



小川小学校で実施された児童引き渡し訓練。

A 学校教育課長 国・県からの防災知識に関する情報を適宜・適切に提供するとともに、小川町地域防災計画の修正を受けて、小・中学校防災計画を作成し各学校に配付しました。

Q 防災地域支援課に適切な支援を求めて連携しているか。

A 学校教育課長 学校が避難所になることを想定しての災害用備蓄物資の配備や避難計画の策定、見直し、Jアラート試験放送とあわせた訓練の実施など防災支援課からの支援を受け、また連携を図る中で実施しました。

Q 民間団体の防災資格取得者から学校管理者への助言は推奨できないか。

A 学校教育課長 防災士会等の民間団体からの指導も有効だと考えます。



まだ？もつ？いずれにしても累積赤字は少額です。

笠原規弘が問う

将来負担を見据えた水道事業を

Q 水道施設の現状は。

A 上下水道課長 老朽化した水道施設の更新需要が増加しています。耐震診断の結果、青山浄水場の浄水施設が耐震性に劣り、補強で約5億円、新設で約8億円の工事費の試算が出ています。

Q 現在おおむね良好と思われる財務状況だが、人口減を見据えた収支計画と経営戦略を図るべきと考えるが。

A 上下水道課長 総務省が示した「経営戦略策定ガイドライン」にのっと



朝日の中、子供たちの命を見守ってくださるボランティアの方々。

り、料金体系及び水準、民間資金、経営ノウハウを活用したPPP・PFI²、広域化施設のダウンサイズ化を検討する予定です。

登下校中の子供たちを守るために

Q 見守りボランティアの方へ、イタルダ³レポートの情報提供を望むが。

A 防災地域支援課長 事故遭遇率が高い年齢・時間・時期等の傾向を把握することで、より効果的な指導に結びつくと考えます。

Q 「子どもあんしん110番の家」どのような緊急対応をお願いしているか。

A 防災地域支援課長 看板を設置していただき、①保護②事情を聞く③連絡をする(警察・学校等)④保護者が来るまで保護、の順で対応をお願いします。



認識と理解が深まり家族の介護負担軽減になればなあ。

根岸成美が問う

認知症ケアの取り組みは

Q 町の高齢化率が35%を超え高齢者を巡る課題は、さらに増加の一端をたどっている。一人一人が住み慣れた地域で自分らしく安心して生活できる環境づくりが求められている。実践していることや今後予定している取り組みは。

A 長生き支援課長 認知症支援で重要なことは、早期発見・早期治療がなされるよう医療介護サービスの整備を行うこと、地域において認知症の正しい理解を啓発していくことと考えます。具体的には認知症サポーターの養成、認知症初期集



中学校で実施された認知症サポーター養成講座。

中支援チームの設置、認知症サポート医による物忘れ相談、認知症カフェ開催に対する補助金交付等です。今年度から認知症検診、徘徊が心配される方のための見守りシールの交付を開始しました。さらに、フレイル予防に着眼した介護予防教室の中で、効果があると考えられる口腔ケアを取り入れたプログラムを実施する予定となっています。

Q 地域でのフォローアップや優しいまちづくりに対して、関係機関との連携が不可欠だが。

A 長生き支援課長 認知症サポーターを増やす養成講座等の充実と、町関係課、民生委員、医療機関、金融機関、警察、消防等で組織する町要援護者等支援ネットワークを活用していきます。

解説 イタルダ³

(財)交通事故総合分析センターの略称。交通事故と「人」「道」「車」の調査研究を行ない、分析結果を公開し交通安全思想の普及に努める機関である。

解説 PPP・PFI²

公共施設の建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行なう手法。PFIは数あるPPP手法の一つである。

改めて考えたが、小川高校は活気の面から必要だと思う



(K・Oさん・54歳)

Mini Column

オガワマチのことギカイのこと一緒に見よう、考えよう

「小川町に必要なもの」